

天草の方言聞き取り記録

天草市の鶴田さん 第7版完成

「失われていく言葉残したい」

天草市本町下河内の洋服リフォーム店経営、鶴田功さん(72)が、天草地方の方言の記録を続けている。1997年から自費出版している方言集は増補を重ね、第7版が完成した。

30代のころ、洋服の行商で天草各地を回っていた鶴田さんは、地域によって言葉が違つことに興味を持った。90年、旧本渡市で開かれた県民文化祭で方言の弁論大会に出場。本格的に収集しようとした。高齢者から聞き取った方言をまとめるようになった。

第7版はB5判、387ページで「いたちくう」(行つてきましよ)など、約5万6千語を収録。巻末では、クロとコノシロという魚の名を語呂合わせした「親が苦労(愚)すれば子の白うなす(親の苦労を子どもは何とも思わない)」など、天草地方のことわざも紹介している。100部作成。学校や図書館などに贈る。ホームページも開設しており、第7版の内容を掲載しているほか、方言の一部を音声で聞くことができる。鶴田さんは「失われていく方言を記録として残していきたい」と話している。

(久間孝志)



完成した第7版を手にする鶴田功さん＝天草市

鶴田功 作品



天草方言集初版(1979)～第八版(2014)

天草方言で読む古典集



DVD 天草方言集 天草俚語集

天草方言で読む古典集

天草方言で読む近代小説集

天草本邑のあゆみ

天草本邑の民話

「知らん方言ば記録したか」

「落ちる」は「おつる」するが、なぜ高浜なのかは不明だ。

「いくる」「ちやーくる」
1956年の高校入学直後、天草の各地域から集まった同級生が話す言葉に驚いた。「落ちる」だけで数十種類あった。「こりや、面白か。初めて聞く各地の方言は、大学ノートに書きとめたです」

卒業後は地元の書店や洋服店に勤め、天草各地を仕事で訪れたときのこと。



「食へる」を「ばびぶへば」で活用する不思議な言葉を聞いた。「はん(食へない)」「ぶー(食へる)」「べー(食へる)」など。「飯やはん。パンならぶー(ご飯なら食へない。パンなら食へる)」。

事て回るようになった。20代のころ、旧天草町の高浜地区を訪れたときのこと。「食へる」を「ばびぶへば」で活用する不思議な言葉を聞いた。「はん(食へない)」「ぶー(食へる)」「べー(食へる)」など。「飯やはん。パンならぶー(ご飯なら食へない。パンなら食へる)」。

幼児言葉と推測 ほとんどが山林で、河川

鶴田 功さん (72) 天草方言集の自費出版を続ける



横顔 1941年、天草郡本村(現天草市本町)生まれ。59年に天草高を卒業。地元の書店、洋服店に勤めた後、独立して洋服店を開いた。現在は洋服リフォーム店代表。PTA会長、県青少年育成アドバイザー連絡協議会会長など、地域の活動にも携わってきた。天草方言集第7版は100部作成し、市内の図書館や小中学校、公民館などに贈った。

沿いや海岸の入り江ごとに集落が点在。主な交通手段は船だった。「天草びとは勇敢に大海は隔てた国々は目指して船は繰り出し、外との交流も多かったこと」と説明する。

来る言葉だった。集めた方言を97年に「天草方言集」として自費出版。その後も改版を続け、今年5月に第7版を出した。収録された言葉は約5万語に上る。

「言葉のアクセントやニュアンスを開けるようにと方言集をDVD化し、インターネットにホームページも開設した。仕事は4、5年前に子どもに引き継いだ

つるた 鶴田 功さん (72) 平家の落人伝説や16世紀のキリスト教伝来。持ち込まれた活版印刷機で印刷された平家物語などの「天草本」は、当時の標準とされた京言葉が使われた。1637〜38年の天草・島原の乱で人口激減後、幕府が

「方言が失われていくのは惜しか。次の世代に記録ば記録したかったです」(天草支局・辻教)

「一方が失われていくのは惜しか。次の世代に記録ば記録したかったです」(天草支局・辻教)

「一方が失われていくのは惜しか。次の世代に記録ば記録したかったです」(天草支局・辻教)

「一方が失われていくのは惜しか。次の世代に記録ば記録したかったです」(天草支局・辻教)

「一方が失われていくのは惜しか。次の世代に記録ば記録したかったです」(天草支局・辻教)

「一方が失われていくのは惜しか。次の世代に記録ば記録したかったです」(天草支局・辻教)